

平成18年度「専修学校を活用した若者・自立挑戦支援事業」成果報告書

事業名	馬関係分野における職業に挑戦する若者の養成支援事業のプログラム開発		
法人名	学校法人日高優駿学園		
学校名	専修学校北海道ホースマンアカデミー		
代表者	理事長 深貝 亨	担当者 連絡先	中島 大助 TEL01456-2-6688
<p>1. 事業の概要</p> <p>馬関係の職業に挑戦している若者の定着率が低いことや、馬関係の従業者に多発する労働災害事故が問題となっているため、これらの実態を調査し、それらの原因を分析することによって、馬関係の職業に定着させるための教育プログラムの開発をする。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>馬関係の約150の育成場または牧場に働く従業員の実態と求人状況、若者の挑戦と定着が困難な原因、新人の人材養成のあり方、雇用側の人事労務対策、若者に対する要望などについて、戸別訪問を中心に調査を実施し、教育期間について、雇用主、労働者の状況を斟酌すると4～6ヶ月程度が望ましいと考えられた。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>実態調査結果報告書の通り、戸別訪問の調査対象に限っても毎年100名以上の若者の人材養成が望まれている状況にあり、3年以上の勤続者の勤務が安定しているのに対し、1・2年未満の勤続の若者の定着が極めて低いことがはっきりとした。この主たる原因が、初心者には馬扱いかかなり困難な作業であることであった。そこで、馬を扱う上での基礎知識、基本的な実技実習の技量を短期に教育し、実体験を積ませてから就労させることが望ましいことが分かった。そのために、短期4ヶ月の教育プログラムを考え、その中で、初心者に必要な最低限の馬に関する知識・馬に対する恐怖心を取り除くことが必要であると考えた。</p> <p>③今後の活用</p> <p>このようなプログラムの中で、この事業を成功させるためには雇用者側の人材養成に対する熱意と積極的な協力が不可欠で、牧場と教育機関との間で、綿密な打合せによる契約が望まれる。教育期間は4～6ヶ月程度とし、馬学教本、上、中、下巻、乗馬実技教本初歩を利用する。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>本年度考察したプログラムを実証し、私たちが考えているプログラムで実際に若者(特にニート・フリーターと呼ばれている者たち)が馬の仕事に就くために、本当に必要な知識・技術がどのようなものなのかをはっきりさせることが必要となってくると思われる。実際に実証講座を終えた学生を雇い入れた雇用主との検証も必要となってくるものと思われる。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①実態調査

従業員実態調査報告書の通り、馬関係の職業に挑戦する若者の定着率が非常に低い原因について実態調査し、彼らを救済するための短期教育プログラムを開発することを目的として、戸別訪問調査104箇所、メール調査54箇所を対象に実施した。調査結果および分析と考察は報告書のとおりである。

②カリキュラムの開発

乗馬技術を考慮すると出来る限り長期間学んでいくことが望ましいが、雇用主からのニーズや、ニートと呼ばれる者たちの偶発的職業挑戦意識または、意欲などを斟酌すると、4～6ヶ月程度の教育で実務に就かせるのが望ましい。初心者に必要な最低限の馬に関する知識を与え、馬に対する恐怖心を無くすることが重要である。そのためには実習と座学を効率的に組み合わせ、教育していかなければならない。乗馬技量は短期間のレベルアップは難しいが、100時間程度の騎乗で馬の動き、感覚が分かるようになり、馬を扱うのに差し支えないと思われる。この4ヶ月間のカリキュラム(1日6講義時間(1講義50分)×5日(土・日休み)×4週間×4ヶ月)480時間の中で320時間を実技実習の時間に当てる。座学は160時間となるが、そのうち20時間は一般教養を身につける時間とし、社会・国語・徳育の講座として若者をしっかりと社会人になれるよう先導的な教育をする。馬学は初歩的な馬の扱い方・体のづくり・成長・飼育法・主要な病気を重点に教育する。また、このカリキュラムで養成した生徒を雇用主と、カリキュラム実施者で契約を結び、評価を客観的に得られるようにする必要があると思われる。

③実証講座

募集時期が遅く、実施は難しかったが、本校の学生を見ている限り、最低限のことは4ヶ月で何とかクリアできるのではないかと考えている

④その他

馬の社会は、かなり閉鎖的で、個別に競争しているため、従業員の数、質や養成などの実態調査はなかなか難しい。したがって今回の調査にあたっては個別の調査内容は公表しない約束とした。